



元気なクラブづくりの ために

日本

クラブ・リーダーシップ・プラン



私たちのクラブは元気です

日本では、多くのクラブで会員数が減少し、会員年齢が高齢化しています。そんな中、米山学友を中心とする「東京米山友愛ロータリークラブ」が2010年に設立されました。会員が多国籍ということに加え、会員の平均年齢が若いことがこのクラブの特徴です。公用語は日本語で、連絡や例会も日本語を使っています。会員の出身国や関係国（バングラデシュ、南スーダン、ミャンマー、ネパールなど）での海外プロジェクトのほか、日本国内でも、東北被災地でのカレー炊き出し、ヨガ体験、高校生に会員出身国の文化を伝える活動、米山奨学生の文化理解ワークショップなど、国際色豊かな活動を展開しています。多国籍会員がいるクラブは日本ではめずらしいのですが、この特色以外にも、さまざまな工夫をして「元気なクラブづくり」を目指しています。

「元気」の秘訣をご紹介します

ビデオ会議

仕事や私用で出張中、子育て・介護中の会員が、自宅や出張先からインターネットを利用して、例会、理事会、協議会にビデオ参加できるようにしています。これによって、出席率が上がるだけでなく、マイクを通じて意見発言もできるため、参加への積極性が向上しました。おかげで、会員一人ひとりがクラブ運営に携わっているという意識が高まっています。

ビデオ会議の導入は、会員の退会防止に加え、多忙な入会希望者にとって例会参加の選択肢が広がるので、会員増強の有効な手段ともなっています。今後はパソコンに不慣れな会員もビデオ会議に参加できるようにするためのオリエンテーションを行うなど、積極的な利用を勧め、参加率をさらに上げていきます。

柔軟なクラブ運営

事務局をおかないことで、会員が事務的業務をすることによってロータリーの知識を深めたり、事務所や事務局員にかかる経費の大幅な削減につながっています。

例会では食事をとらない形式を用いているため、例会後に有志による親睦食事がよく企画開催され、異文化交流の雰囲気を楽しむことができます。

独自の活動で公共イメージアップ

クラブの特色を生かした奉仕活動は、口コミだけでなく、地元紙・メディアにも取り上げられ、公共イメージ向上につながっています。現在、国連ユニタールとの活動に参加しており、今年度

(2017-18年度) 初めてグローバル補助金を活用して、米国のクラブと一緒に広島原爆の生き延びた被爆樹木を世界に植樹するプロジェクトを実施しています。

会員ネットワークの活用

ロータリーファミリーや友人の紹介が多いのもこのクラブの特色です。会員の家族、友人、大学の後輩などを奉仕活動に誘って、ロータリーの活動理念とともに学び、体験し、それが入会につながっています。日本にいるとなかなか体験できない活動を、ロータリーを通じて体験でき、世界中に仲間ができることを大いに謳歌できます。会員出身国の学友会活動の活性化も、奉仕活動の一環として取り組んでいます。

学友が多いクラブの強みは、会員が入会前からロータリーの活動に参加した経験をもっていることです。特に米山奨学生は、「米山学友」としての誇りを胸に、民間大使として日本と母国との懸け橋として、さまざまな分野で活躍しています。このような会員の個性こそがクラブの財産だと強く思います。

リーダーシップの育成

米山学友が日本社会で道を拓き、幹部職として活躍できるような人材として育つことができるよう、RYLAプログラムなどをヒントにした企画にも取り組んでいます。会員には独立して起業した人も多く、海外のビジネス事情について情報交換をするなど、職業奉仕にも役立っています。



元気なクラブとなるためのステップ

あなたのクラブでは、会員が積極的に参加し、実りあるプロジェクトを実施し、新しいアイデアを試していますか？楽しく、活気に満ちていますか？

以下のアイデアを参考にして、会員の積極性と地域の人びとの関心を引き出し、入会を促すためのプランを立てましょう。

クラブの3～5年後の姿を思い描く

- 年に1度、クラブのビジョンについて話し合う。クラブの健康チェックを使ってクラブの強みと改善点を探る。
- 戦略計画立案ガイドを使って長期目標を立てる。

年次目標を立て、ロータリークラブ・セントラルに

- クラブが得意とする活動や分野を見つけ、その長所をさらに伸ばす。
- 月1回、目標に向けた進捗状況を各委員会に伝える。

会員が積極的に参加でき、情報豊かな例会とする

- クラブの良い点、改善点を探るために会員満足度調査を実施する。調査の結果を基に、今後の実行項目を決める。
- 従来型例会、オンライン例会、奉仕プロジェクト、親睦の集まりなど、さまざまな例会形式を取り入れる。

クラブ内でオープンなコミュニケーションを図る

- 例会、クラブのウェブサイト、ソーシャルメディアで情報を共有する。
- 定期的に会員の声を聞く機会を設ける。
- ブランドリソースセンターから入手できるテンプレートを活用し、クラブのパンフレットと会報をつくる。

後継者を育て、スムーズな引き継ぎを図る

- 継続性を図るため、次年度以降のリーダーも任命する。各委員会には現委員長のほか、次期委員長と元委員長も含める。
- 次期役員のために「OJT（オンザジョブトレーニング）」を行う。各役員の責務内容を文書にまとめる。

クラブの運営方法を反映させて、細則を独自に修正する

- 会員とともにクラブ細則を毎年見直す。
- 推奨ロータリークラブ細則のテンプレートに手を加え、クラブの新しい手続きや運営方法が反映されるようにする。

会員同士の交流を深める

- 「新会員オリエンテーション：ロータリーでの第一歩を踏み出してもらうために」を参考にする。
- 毎回の例会で違う会員と同席するようにする。

会員が心から関心をもてる活動に参加できるようにする

- 会員の関心を調べるアンケートを実施し、その結果を基にプロジェクトや活動を計画したり、会員が満足できる例会を企画する。
- 新会員の関心を調べ、各自に合った役割をクラブで担当してもらうことで、入会后早い時期から新会員の参加を促す。

ロータリーのリーダーとなる人材を育てる

- クラブの研修リーダーまたは研修委員会を任命し、研修プランの立案と実施を担当してもらう。
- 「実践リーダーシップ」の研修を実施し、会員のリーダーシップスキルを磨く。

クラブ運営に必要な委員会を設置する

- 小規模クラブ：委員会の活動を統合する方法を検討する。
- 大規模クラブ：全会員が参加できるよう、追加の委員会を設ける。